

NEWS of NEWS

仙北谷 ドイツ製機で参入 金属3Dプリンタ受託加工

仙北谷は、ドイツコンセプトレーザ製の金属3Dプリンタ「M2」を導入し、金属3Dプリンタの受託加工サービスを始めた。M2は、アルミニウムやチタンの造形に強みを持つ。400Wの高出力レーザで高精度な加工が可能。同社は航空宇宙、自動車部品、産業機器向けを主力とした切削、放電加工メーカーで、5軸加工や形彫放電加工を手がけている。3Dプリンタを使用した造形後の2次加工に対応し、新サービスで受注拡大を狙う。

サカザキ精工 ズームレンズ鏡筒向け 多頭MCを開発

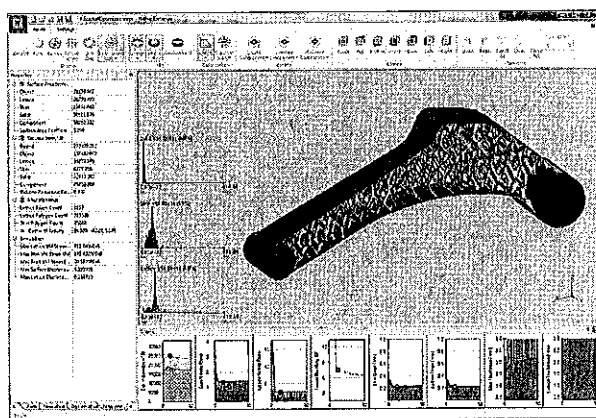
サカザキ精工は、一眼レフの交換用ズームレンズの鏡筒向けに、最大4個の部品を5軸同時加工できる多頭マシニングセンタ(MC)「SVシリーズ」を開発した。1回の段取りで複数部品の複数工程加工が可能で、鏡筒の外カム溝や内カム溝加工のほか、平面加工、穴あけ、タッピングといった加工が可能で、高精度加工を実現する。ATCは1軸当たり21本のツール収納能力があり、一般的なMCと同等の加工能力を持つ。

川田鉄工、メカ式2軸 割り出し装置 TL150-105開発

川田鉄工は、メカ式2軸割り出し装置「チルティングユニット」で、従来比2倍となる厚さ110mmまでのワークを加工できる「TL150-105」を開発した。チルティングユニットは角度割り出し装置を2台を組み合わせた装置で、立形MCに取り付けて5軸5面加工を可能にする。同社は、2016年に構造設計の工夫で本体厚さが60mmと業界最薄クラスのメカ式角度割り出し装置「タッチデックスFD-105」を開発している。

データ・デザイン、AM用支援ツールNETFABB 2017リリース ストラクチャ構造化とトポロジー最適化を強化

データ・デザイン (TEL 052-953-1588) は、アディティブ・マニュファクチャリング支援ツール「AUTODESK NETFABB」の最新バージョン



NETFABB 2017 イメージ画面

「NETFABB 2017」の日本語版をリリースした。

3D積層造形機を対象としたメッシュデータの編集・修正・構造最適化を行うための重要な支援ソフトウェアで、3D積層造形の際に問題となるメッシュ間の自己交差の解消や隙間のないソリッドモデル化、メッシュ容量の削減、中空モデルの作成からパーツ同士の干渉チェックなど、3D積層造形プロセスで必要となるモデル編集を簡単な操作で実現できる。

今回の最新バージョンでは、ライセンス形態も大幅に変更された。新たにストラクチャ構造化、トポロジー最適化、積層造形シミュレーションなど、金属粉末焼結造形に必要な先進機能が搭載された。同社は、導入から運用支援までのテクニカルサービスも提供する。